



# 【CapeOX+キイトルーダ療法について】 (ゼローダ+エルプラット+キイトルーダ)



様  コース目

😊 **お薬の名前と治療のスケジュール** (副作用の状況を考慮して、抗がん剤の影響が強く残っていると考えられる場合は、次回の治療開始を延期することがあります。)

めやすの時間			1日目	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	1日目	
薬の名前	作用																								
パロノセトロン注	吐き気止めです	15分																							
デキサート注																									
キイトルーダ注	抗がん剤です	30分																							
エルプラット注	抗がん剤です	2時間																							
ゼローダ錠	抗がん剤です	朝・夕 内服																							

キイトルーダについては冊子で説明させていただきます。

1回 錠

## 😊 治療による副作用

注意が必要な時期

		1日目	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	1日目		
自覚症状	過敏症																								
		痒みや顔のほてり、じんましん、脈が速い、息苦しいなどの症状が出た場合はお知らせ下さい。																							
	食欲不振・吐き気																								
		食欲低下や吐き気がすることがあります。食べやすいものを無理なく食べ、水分を摂りましょう。																							
	手足のしびれ																								
		手足のしびれ、感覚が鈍るなどの症状が出ることがあります。冷たい物に触れないようにしましょう。																							
	血管痛																								
		点滴の途中に、注射部分やその周りに違和感や痛みなどがあればお知らせください。																							
	口内炎																								
	口の中が荒れて痛みが出ることがあります。歯磨き、うがいなど丁寧にしっかりと行いましょう。																								
下痢																									
	便の回数が多くなったり強い腹痛をとまったり、水の様な便が出る時はお知らせ下さい。																								
手足症候群																									
	手足がチクチクと痛い、赤く腫れる、ひび割れ、水疱が生じることがあるので、保湿剤を使い手足の乾燥を予防しましょう。																								
色素沈着																									
	肌が黒ずむことがあります。長袖や帽子などを用いて、日光など紫外線には注意してください。																								
脱毛(頭髪・まつ毛・眉毛など)																									
	髪質が少し変わることもありますが、治療後半年程度でまた生えてきますので、心配しすぎないでください。																								
検査値	白血球減少																								
		感染しやすくなりますので、手洗いうがいを心がけましょう。必要に応じて白血球数を上げる注射をすることがあります。発熱時はお知らせ下さい。																							
	赤血球減少(貧血)																								
		貧血の症状(めまい・ふらつき)がでたりします。転倒に注意しましょう。																							
血小板減少																									
	出血しやすくなって手足に赤い点やあざがでたり、歯ぐきから血が出たりすることがあります。転倒に注意しましょう。																								
肝機能低下																									
	体がだるい、食欲がでない、皮膚のかゆみ、皮膚や白目が黄色くなるがあります。																								



- \* 注射の針を刺している部分に違和感や浮腫、痛みなどがありましたら、すぐにお知らせください。
- \* 上の表は治療のスケジュールや副作用が出やすい時期の目安を示したものです。必ずこの通りになるとは限りません。
- \* それぞれの副作用に対して、必要に応じてお薬を使うこともあります。
- \* 何か気になる症状が出たり、お聞きになりたいことなどありましたら、気軽に医師・看護師・薬剤師にお尋ねください。